

手話言語学を世界へつなぐ

メディア発信とe-learning開発に向けて

研究代表者 菊澤律子 総合研究大学院大学文化科学研究科比較文化学専攻 / (基盤研究機関) 国立民族学博物館先端人類科学研究部

手話言語学＝手話を対象とした言語学的研究

音韻論 / 形態論 / 統語論 / 語用論 / 言語類型論
歴史言語学 / 社会言語学 / 認知言語学 / 他

問題 | 新しい研究分野であり、研究者数や成果が限られている。
若手研究者が興味を持って専攻できる場がない。ろう者(話者)が内容を知ることのできる場がほとんどない。

事業内容

手話言語学の研究成果を
インターネットで配信

具体的には…

- ◎ウェブサイトの構築(基盤の整備)
- ◎映像資料の作成(ルーティン化に向けて)
- ◎将来に向けての方向性の整理

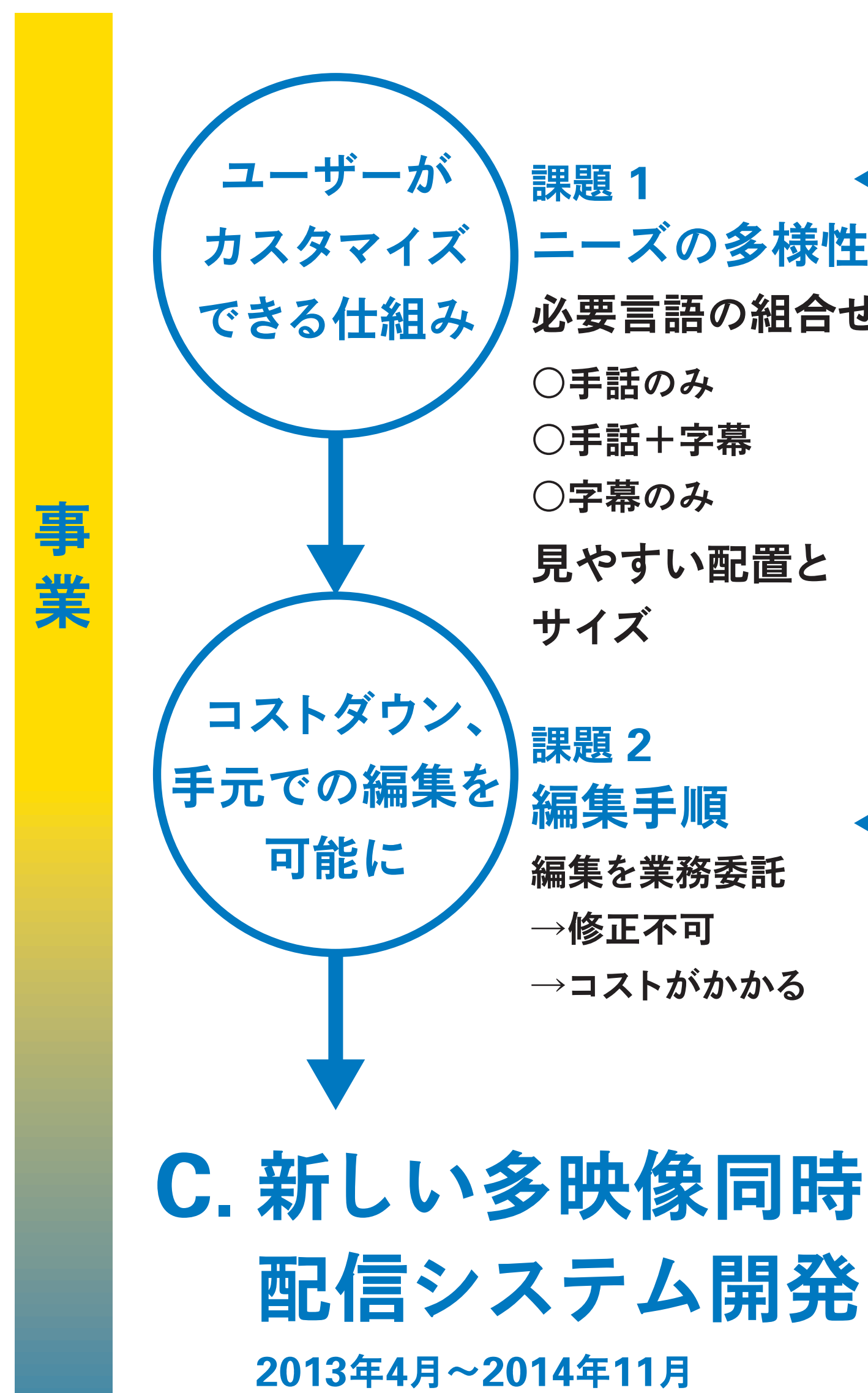
目的

ろう者への情報保障
配信のための
基盤の整備と共有化

関連諸分野の
研究者の
協力により

内容

ポイント



A. ストリーム配信と素材の収録 ★1 ★2

2012年7月～2014年10月

配信・収録
言語学に関する国際シンポジウムおよびセミナー
全5事業。平均合計アクセス数300～600

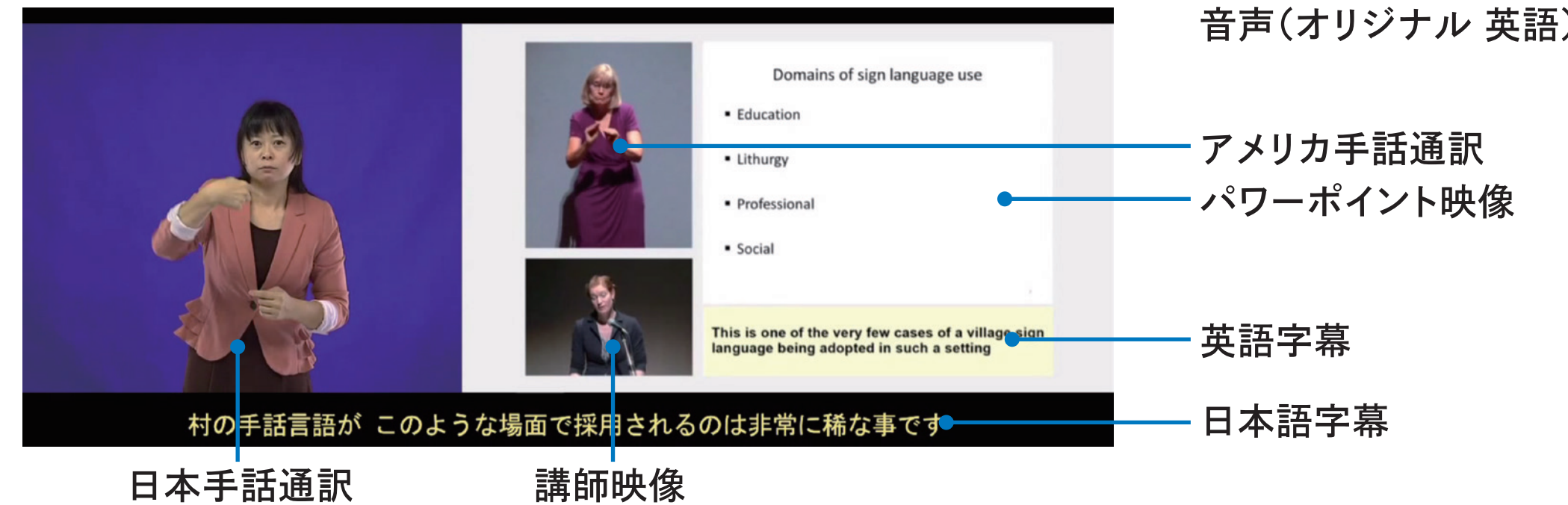
収録
話者のための言語学入門講座
全8回。ハワイ大学大学院生による。

B. 番組の作成・ウェブへのアップ

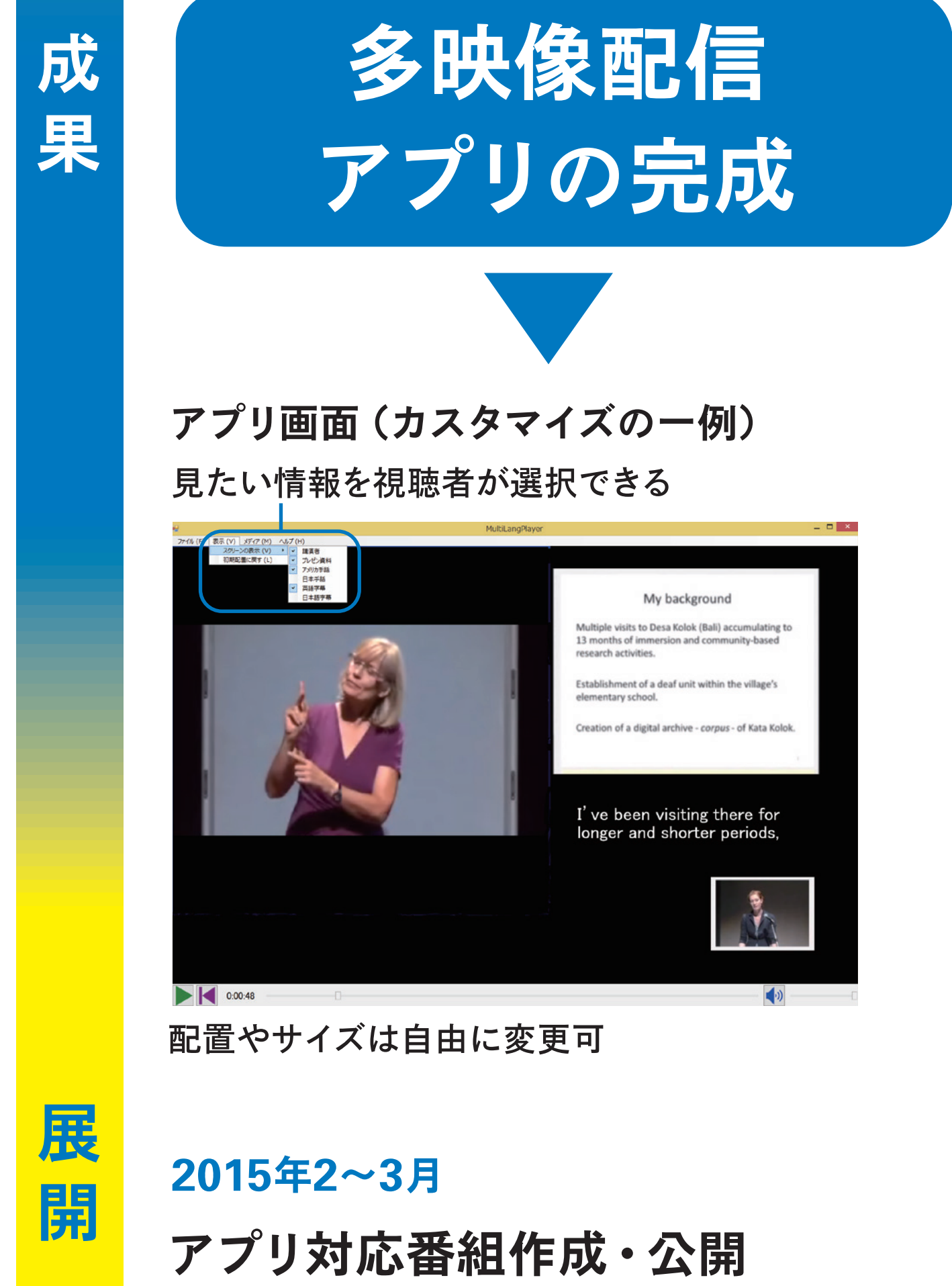
2012年8月～2015年3月

字幕作成★3、日本語手話通訳収録★4、編集★5、サイトの整備

作成番組画面



- ★1 配信画面の配置
通訳者は大きく。講師は小さく。
- ★2 画質は高すぎても低すぎてもNG
手話が読みとれ、かつ受け側の受信環境に配慮
- ★3 テープ起こし・翻訳依頼の注意点
遠隔同時筆記利用で字幕つけも
- ★4 ろう通訳による収録
英語音声→日本語のタイミング合わせ
- ★5 さまざまな可変要素
素材の組み合わせ、位置、サイズ、etc.



コンテンツ

収録映像 57講演(27講演を公開)
他、文字起こしデータ・翻訳データ等

<http://www.minpaku.ac.jp/sokendai/ssll/index.html>

D. ユーザビリティ評価と今後に向けて

2014年9月～12月

ろう者2名、聴者2名(全員が研究者)を対象としたパイロット実験
3画面および6画面構成番組の視聴時の視線計測★6
インタビューによる質的調査★7

ノウハウのまとめ

視線計測によるユーザビリティ評価

赤線は視線の軌跡。
赤丸の大きさは注視時間に比例。

- ★6 ろう・聴の別により視線の動きが異なる
ろう者は手話通訳を注視/聴者は視覚情報は補助的役割
- ★7 多画面番組は単画面に比して必ずしも負荷が大きくはない

ユーザビリティテストの結果報告

アプリの修正・汎用化と活用

高等教育機関における情報保障体制の見直し
ろう・聴それぞれにとって使いやすい番組構成の検討

研究チーム ★ろう者 ★聴者

市田泰弘 (手話言語学、手話通訳法)★

大杉 豊 (手話言語学、コーパス研究)★

奥本素子 (学融合推進センター / 教育学、サイエンスコミュニケーション)★

菊澤律子 (比較文化学専攻 / 言語学、言語展示学)★

木村晴美 (手話言語学、手話通訳法)★

相良啓子 (手話言語学、手話言語類型論)★

庄司博史 (地域文化学専攻 / 社会言語学)★

富田 望 (手話言語学)★

中野聡子 (聴覚障害学、特別支援教育)★

廣瀬洋子 (メディア社会文化専攻 / 教育学、高等教育における障がい者の学習支援)★

坊農真弓 (情報学専攻 / 会話情報学、言語学)★

ジェニファー・マグワイア (ろう教育学)★

丸川雄三 (比較文化学専攻 / 連想情報学)★

森 壮也 (手話言語類型論)★

柳沼良知 (情報工学、マルチメディア情報処理)★

八杉佳穂 (比較文化学専攻 / 言語人類学)★

研究協力者 久保琢也、ラウラ・ロドリゴ